工学

企　業

自分と周りの情熱を大切に

関根千津（住友化学㈱　事業化推進室　研究開発リーダー）

仕事の内容とやりがい

入社から22年間、表示材料（液晶、有機ELなど）の研究開発に従事してきました。顧客が求める特性に向けて、新しい材料を開発する業務です。“やりがい”を意識したことはありませんが、材料との対話、即ち、解析、予測、設計というプロセスが楽しく、特に評価は材料からの返事なので、わくわくしていました。もちろん、がっかりすることは山とありました。
現在は本社で、開発した成果を事業化する業務を担当しています。“これがやりがい”と言えるものはありませんが、業務全体になぜか使命感のようなものを感じており、能力、経験不足を嘆きながらも駒を進めている状態です。事業の立ち上げ初期である、開発とビジネスの境界は、ダイナミックな動きが発生する渦です。

私の進路決定のきっかけ

理系に進む”きっかけ“は覚えていません。多分、無いと思います。小、中学校生の頃から、理科は好きでしたが、他の教科も同じように好きでした。天体観測が趣味でしたので、影響したかもしれません。買ってもらった望遠鏡を改造したり、部品をつくるのも好きでしたので、何となく理系に進んだというのが実体なのではと思います。研究者という職種は、中学生くらいから意識していたかもしれません。

仕事と生活のバランス

入社１年目に結婚。結婚退職が当たり前の時代でしたが、生活のために仕事はするものと思っていたので、普通に続けました。好きなだけ仕事をする生活でした。結婚後15年して子供を授かりました。少子化で保育園は常時定員割れ、幸運でした。また、子持ち女性社員の社会的環境が整備され、感謝するとともに、やはり幸運と思いました。ベテラン保育士の凄さをまのあたりにし、子育てはプロの手を借りるのが一番、と納得して、生後２ヶ月から預けました。
現在は小学生ですが、仕事をする上で子供をどこかに預けることは必須です。都会は選択肢が豊富で恵まれていますが、母にかなり助けてもらっています。素直に感じるのは、“母親が働いていると、子供に皺寄せが行くのは真実だ”ということです。ですので、これを前提として、自分に何ができるかを常に考えて実践しています。（子供は迷惑でしょうけど、親の趣味です）

進路選択についてのメッセージ

仕事をする上で重要なものは、情熱とスキルだと思います。スキルは学習や訓練で身に付きますが、情熱は身につけるものではなく、沸いてでるものです。では情熱をもてる分野を選びましょう、、となる人が多いのかもしれませんが、私はそうではないと思います。情熱はどんな仕事でも、沸いてくるものと思います。ですので、自分の情熱に心の耳を傾けて、よくよく感じてください。乱暴かつ抽象的な表現かもしれませんが、それを感じたときに、目の前にある進路を選択するくらいが丁度よいのではと思います。自分のキャリア形成は、その後、なりたい姿や将来ポジションをイメージして、しっかり立てるとよいですね。

＜関根千津（せきねちづ）プロフィール＞
都立富士高校卒業後、
1987年　青山学院大学理工学部化学科卒業
1989年　東京工業大学総合理工学研究科修士課程終了
1989年　住友化学工業（当時）入社、筑波研究所（当時）に配属
2002年　東京工業大学　博士（工学）取得　（論文博士）
2011年　本社事業化推進室へ異動、現在に至る。